

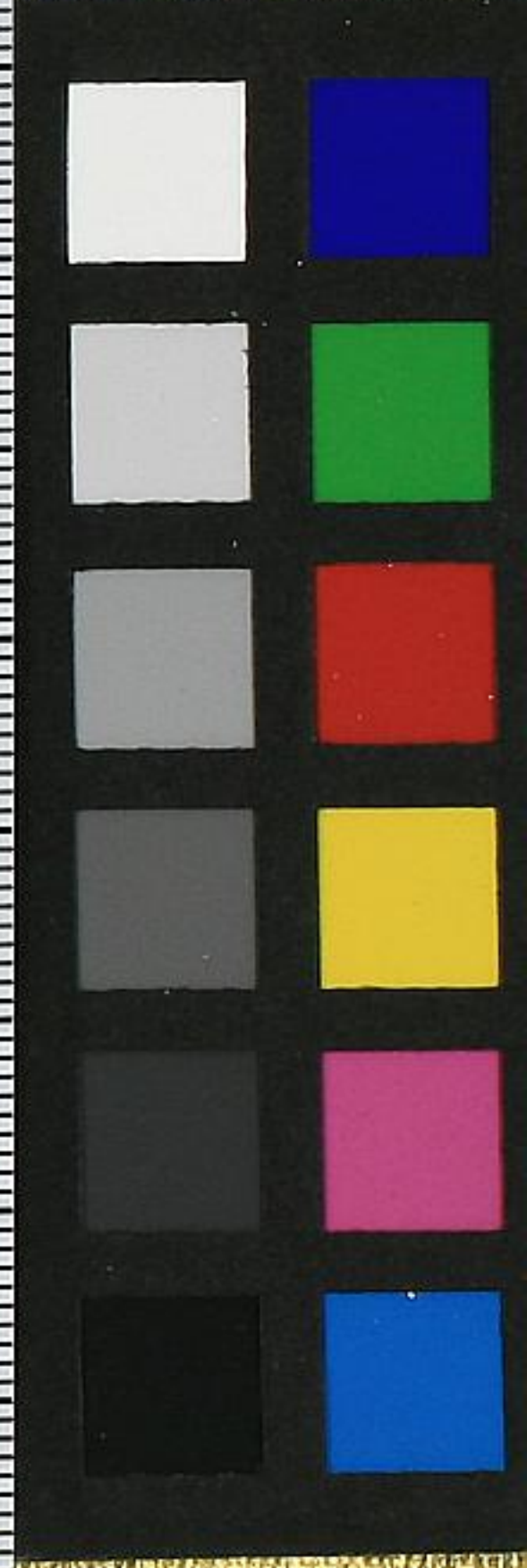


大坪本流色紙之卷

上はやとけめ下はよきみわ
 下角うけよむとそいふ
 隅の名を大隅少をみらの事
 々々々々々々々々々々々々々々々
 鞍のと十子の曲とあはれに
 八はあまのこもりのせうりし
 大あまのこもりしおとて強き
 ちもあまのこもりしおとて強き
 岩石や海にわらわらわらわら
 楽人れ公もりよりよりより

明治三十八年一月三十日

子爵足利於菟丸 氏寄贈



高麗とては其の地を以て其の地を以て

ありては其の地を以て其の地を以て

只此の地を以て其の地を以て其の地を以て

人の地を以て其の地を以て其の地を以て

高麗とては其の地を以て其の地を以て

只此の地を以て其の地を以て其の地を以て

暗に其の地を以て其の地を以て其の地を以て

只此の地を以て其の地を以て其の地を以て

高麗とては其の地を以て其の地を以て其の地を以て

只此の地を以て其の地を以て其の地を以て

高麗とては其の地を以て其の地を以て其の地を以て

只此の地を以て其の地を以て其の地を以て

高麗とては其の地を以て其の地を以て其の地を以て

只此の地を以て其の地を以て其の地を以て

高麗とては其の地を以て其の地を以て其の地を以て

只此の地を以て其の地を以て其の地を以て

高麗とては其の地を以て其の地を以て其の地を以て

只此の地を以て其の地を以て其の地を以て

あつたまのこころにふくむ月
好ましくある事此の
心いふのちあふむ舞の
女のあはれ遇物さの
高き心はなほはなほ
しるはるもくはなほ
百あし鳥さうらな長業
しきこやまのしきを
はなはなひたたりと
忘るるしきを
高き心のあはれはなほ
しるはるもくはなほ
あつたまのこころに
あつたまのこころに
あつたまのこころに
あつたまのこころに
あつたまのこころに

隅のなき川おれをくす
ふらこののましあるまを
捨つよこころぬ馬のあつむら
小角大ら用さしそ鞍下
豆のあそく結ゆ心ほて
守れ業とせころを
口ほく守ふ海流の馬是
こころの父母子のれを口
馬ならぬ馬も心から
物なる馬様として
口もくまれそ馬事あり
口はら角さたふおま
人さし引を口そいかに
こころおく馬もつこも
七ころあそり本向父母
をたこ馬のそられ
七ころあそり口
由馬七過たも

極楽の地ありてはなりな
はの如き傳主我を以て
馬に上りてはれはふりけり
美人の心もわが世に
なまじき書も紙と爲らん
こころれをば解し谷川の水

右一巻は馬北心を禱して三
拾字一文字も清ら結て百六
字の義ふことなりにはん中
口に甚深微妙の縁ありて
其妙極まりては禱し一
行して其位よりわが
こころもつとみしやま
照し一音なりは
その世をせんは人れ
よ叶事成るは

叶事成之可也

當流宗師

日本武尊

迎來流

貞純親王

鹿島流

八幡太郎

義家

六條判官

為義

湯山入道中原

玄性

大坪流

大坪式部大輔

廣秀

村上加賀守

永幸

齊藤備前守

國忠

齊藤備前守 國忠

齊藤安藝守 好玄

齊藤備後守 忠玄

齊藤齊宮頭 辰遠

丹列住僧了慶坊

齊藤求馬助 辰光

大坪本流

齊藤主稅 定易

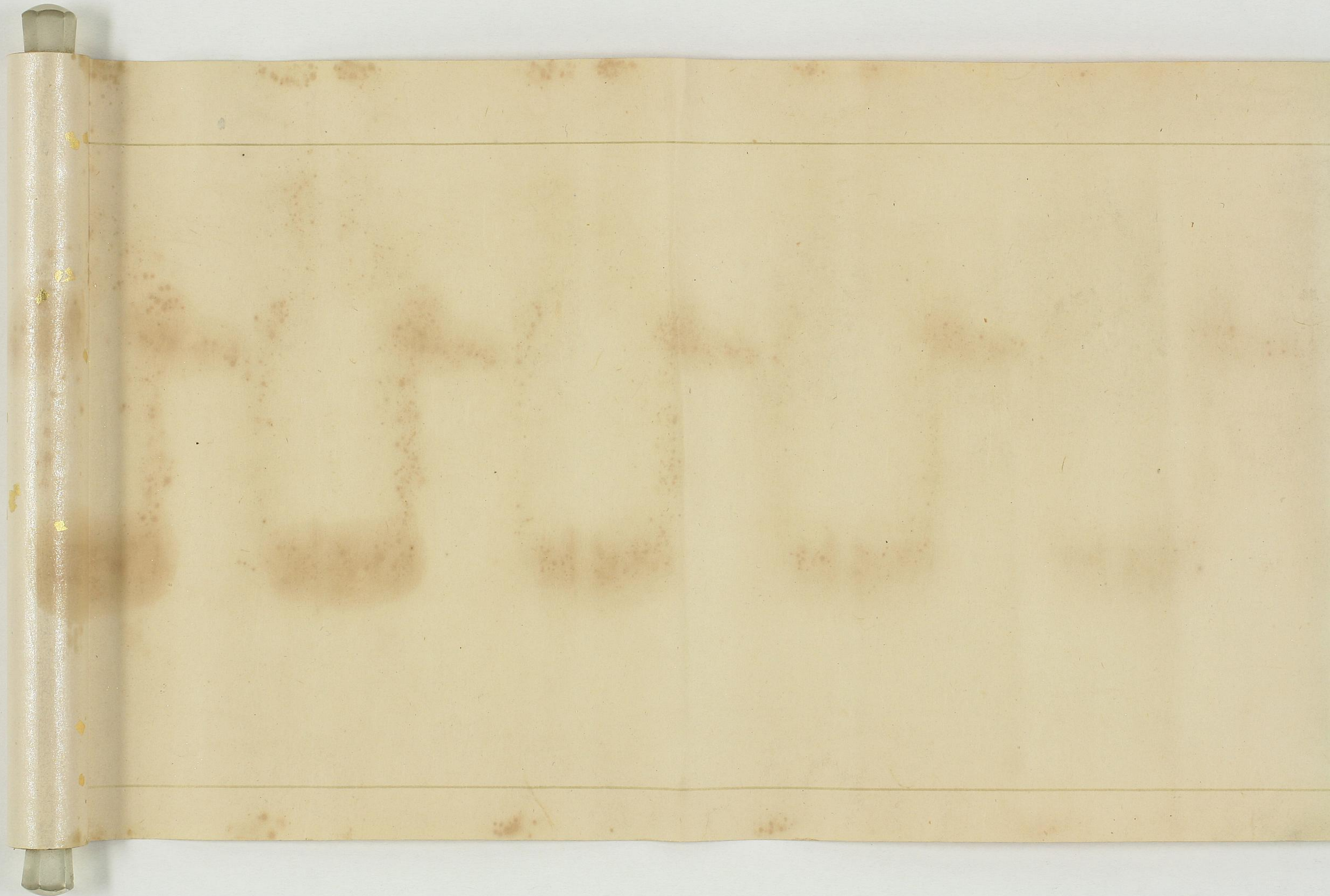
久保田宗頻入道弘道

定易直弟

久保田多忠藤原弘隆

定易直弟

久保田多忠藤原弘隆



色紙之卷

特別
55
754
15

